

研修カリキュラム・シラバス(介護職員初任者研修)

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
1	職務の理解	(指導目標) 介護保険制度の意義と介護の意義を学ぶ。 介護職の仕事内容と働く現場の理解する。					
	(1) 多様なサービスの理解	3		3		国の施策の動向と介護・介護保険制度の意義を理解し、介護職のあるべきイメージを理解するとともに、科目構成と科目の相互の関連性等全体像を理解する。	
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3		3		多様なサービスと介護職の仕事内容・働く現場を理解するとともに、介護職の資格体系を見直しキャリアパスを学ぶ。	
2	介護における尊厳の保持・自立支援	(指導目標) 人権と尊厳、ICF、QOL、ノーマライゼーション、虐待予防、拘束禁止、権利を守る制度についての理解する。 自立支援と介護予防を学ぶ。					
	(1) 人権と尊厳を支える介護	6		6		介護職の基本理念である「基本的人権」及び「個人の尊厳」を理解する。アドボカシー、エンパワメント及び介護におけるICF、ノーマライゼーション理念等の理解を深める。	
	(2) 自立に向けた介護	3		3		専門職として求められる「自立」と「自律」の理解。自立支援のための介護方法及び介護予防の意義と方法を学ぶ。	
3	介護の基本	(指導目標) 介護環境の特徴と専門性、関わる職種への理解と倫理を学ぶ。 安全について理解する。					
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2		2		介護職に求められる専門性を理解し、利用者主体の支援、根拠ある介護等基本的な知識を学ぶ。異なる専門性をもつ専門職種と多職種によるチームケアにおける機能と役割を理解する。	
	(2) 介護職の職業倫理	2		2		法令遵守、利用者の尊厳と自己決定、日本介護福祉士の倫理綱領等から介護の専門職としての社会的責任と姿勢を理解する。	
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1		1		介護における安全確保の重要性とリスクマネジメントを理解する。危険予知と事故予防、事故発生時の緊急対応を具体的事例から学ぶ。	
	(4) 介護職の安全	1		1		介護職の健康管理の重要性を理解し、介護職に起こりやすい健康障害、腰痛、感染症の予防等を学ぶ。	

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	(指導目標) 介護保険制度、障害福祉制度についての理解する。 医療について理解する。					
	(1) 介護保険制度	3		3		社会背景を理解し、介護保険制度の意義・成立と導入後の動向を学ぶ。また、制度の基本的仕組み・サービスの種類・利用の流れ、年金制度等を学ぶ。	
	(2) 医療との連携とリハビリテーション	3		3		服薬、健康チェック、ストーマ、経管栄養等の高齢者医療及びリハビリテーションの意義・種類・経過等を理解する。	
	(3) 障害福祉制度およびその他制度	3		3		障害者福祉の背景と動向を学び、制度の理念・概要と目的を理解する。また、消費者基本法、成年後見制度等、個人の権利を守る制度の概要や目的も学ぶ。	
5	介護におけるコミュニケーション技術	(指導目標) コミュニケーションの重要性とその手法を理解する。 記録の重要性を理解する。					
	(1) 介護におけるコミュニケーション	3		3		コミュニケーションの意義と目的、利用者・家族への対応、状況・状態に応じた手法を学ぶ。	
	(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3		3		チームにおける報告・連絡・相談、記録による情報の共有化を理解する。	
6	老化の理解	(指導目標) 老化に伴う変化と生活への影響を理解する。 高齢者の疾患と生活上の留意点について学ぶ。					
	(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3		3		老年期の心身の変化の特徴、心身機能の変化と日常生活への影響を理解する。	
	(2) 高齢者と健康	3		3		高齢者の疾病、高齢者に多い病気と生活上の留意点を学ぶ。	

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
7	認知症の理解	(指導目標) 認知症についての理解と支援方法を学ぶ。 家族への支援方法を理解する。					
	(1) 認知症を取り巻く状況	2		2		認知症ケアの理念を理解し、認知症の人に生じやすい身体的不調と健康管理を学ぶ。	
	(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1		1		認知症の概念と原因疾患・病態を理解する。	
	(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2		2		認知症の人に起こりやすい生活障害、心理・行動の特徴を理解し、利用者への対応を学ぶ。	
	(4) 家族への支援	1		1		認知症の受容過程の援助と、介護負担の軽減を理解し、家族との関わり方を学ぶ。	
8	障害の理解	(指導目標) 障害についての理解と支援方法を学ぶ。 家族への支援方法を理解する。					
	(1) 障害の基礎的理解	1		1		障害者福祉の基本理念、国際生活機能分類を理解し、正しい障害の認識や知識を修得する。	
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1		1		身体障害・知的障害・発達障害・内部障害等の障害をそれぞれ医学的側面から学び、障害と障害者を理解し支援方法を学ぶ。	
	(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	1		1		障害者や高齢者を介護する家族の肉体的・精神的負担を理解し、家族への関わり支援を学ぶ。	

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	(指導目標) 介護技術の習得と技術のもととなる知識を学ぶ。					
	I 基本知識の学習					(10~13時間程度)	
	(1) 介護の基本的な考え方	2		2		理論に基づいた介護、法的根拠に基づいた介護を理解する。	
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4		4		自己概念と生きがいを理解する。	
	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4		4		健康チェック・バイタルサインのとり方、骨・関節・筋肉、自律神経と内部器官に関する基礎を理解する。	

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
II 生活支援技術の講義・演習						(50～55時間程度)	
	(4) 生活と家事	6		6		生活の捉え方、衣食住の環境整備等、生活と家事について理解する。	
	(5) 快適な居住環境整備と介護	6		6		人と住まいを理解し、高齢者・障害者にとっての住まいの性能について学び、介護保険による住宅改修と福祉用具の利用について学ぶ。	
	(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		2	4	整容の生理学的・社会的・精神的意義を理解し、具体的な整容行動と支援方法を学ぶ。 演習時間内に実技評価を行う。(衣服の着脱、身だしなみ等)	
	(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12		2	10	移動・移乗介助の意義と目的、福祉用具と利用方法、残存機能の活用と自立支援、利用者と介護者の安全・安楽な介助方法を学ぶ。 演習時間内に実技評価を行う。(車いす等福祉用具を用いた移動・移乗等)	
	(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		2	4	食事の意味・摂取の仕組みと加齢や障害に伴う様々な症状、用具・自助具の活用法、口腔ケアを理解し、楽しい食事の支援方法を学ぶ。 演習時間内に実技評価を行う。(食事の介助、福祉用具の使い方等)	
	(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		2	4	入浴と清潔保持に関する基礎知識を学び、安心・安全な入浴介助・清拭介助を学ぶ。 演習時間内に実技評価を行う。(入浴と清拭、ケリーパット洗髪等)	
	(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		2	4	排泄の意義・メカニズム・排泄障害・失禁を理解し、排泄環境の整備・用具の活用方法と支援方法を学ぶ。 演習時間内に実技評価を行う。(福祉用具使用及びベッド上の排泄介助)	
	(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3		1	2	睡眠に関する基礎的知識を理解し、環境整備と用具活用等による質の高い睡眠の支援方法を学ぶ。 演習時間内に実技評価を行う。	
	(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	2		2		終末期の身体的状況・心理状態を理解し、緩和ケアと多職種との連携、家族への支援方法を学ぶ。	

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
	Ⅲ 生活支援技術演習					(10～12時間程度)	
	(13) 介護過程の基礎的理解	2			2	介護過程を理解し、介護過程の展開に必要な構成要素を理解する。	
	(14) 総合生活支援技術演習	10			10	事例において一連の支援を学ぶ。支援の際の視点、アセスメント、自立に向けた介護過程の展開方法を理解する。演習時間内に実技評価を行う。 実技（事例別支援方法、総復習、修得状況の確認）	
10	振り返り	(指導目標) OJTとOff-JTについての理解。これまでの研修で学んだことの整理と今後についての課題。					
	(1) 振り返り	2			2	研修全体を振り返り、学習したことと継続的に学習すべき事柄の確認。	
	(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2			2	現場における継続的学習等についての確認。キャリアパスやOJT等の理解を深める。	